

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成28年9月1日 (2016.9.1)

【公表番号】特表2015-528033(P2015-528033A)

【公表日】平成27年9月24日 (2015.9.24)

【年通号数】公開・登録公報2015-059

【出願番号】特願2015-521025(P2015-521025)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/02 (2006.01)

C 0 8 L 75/04 (2006.01)

C 0 8 K 5/10 (2006.01)

C 0 8 K 5/29 (2006.01)

C 0 8 K 5/057 (2006.01)

C 0 9 J 183/04 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 J 11/04 (2006.01)

C 0 9 J 175/04 (2006.01)

C 0 9 D 183/04 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

C 0 9 D 175/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 101/02

C 0 8 L 75/04

C 0 8 K 5/10

C 0 8 K 5/29

C 0 8 K 5/057

C 0 9 J 183/04

C 0 9 J 11/06

C 0 9 J 11/04

C 0 9 J 175/04

C 0 9 D 183/04

C 0 9 D 7/12

C 0 9 D 175/04

【手続補正書】

【提出日】平成28年7月12日 (2016.7.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

湿気硬化型組成物であって、

a) 少なくとも 1 つのシラン官能性ポリマー P、

b) シラン官能性ポリマーを架橋する少なくとも 1 つの触媒及び

c) 少なくとも 65% (w/w) の少なくとも 1 つのフィラー

を含み、完全に硬化した状態で D I N 53505 に準拠して求められるショア A 硬度が 60 以上であり、硬化前に本明細書に記載の方法によって求められる押出圧力が 1000

N 以下であり、

シラン官能性ポリマーを架橋する前記触媒がオルガノチタネート若しくはアミジン、又はこれらの２つの組合せであり、かつ

硬化の際にメタノールを分離する構成成分を含有しない、  
湿気硬化型組成物。

【請求項 2】

前記シラン官能性ポリマー P が、

イソシアネート基に対して反応性の少なくとも 1 つの基を有するシランと、イソシアネート基を含有するポリウレタンポリマーとを反応させることによって得ることができるシラン官能性ポリウレタンポリマー P 1、

イソシアナトシラン I S と、イソシアネートに対して反応性の官能性末端基を含有するポリマーとを反応させることによって得ることができるシラン官能性ポリウレタンポリマー P 2、又は、

末端二重結合を有するポリマーのヒドロシリル化反応によって得ることができるシラン官能性ポリウレタンポリマー P 3、

から選択されることを特徴とする、請求項 1 に記載の湿気硬化型組成物。

【請求項 3】

前記シラン官能性ポリマーを架橋する有機スズ化合物を含有しないことを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の湿気硬化型組成物。

【請求項 4】

フタレート含有可塑剤を含有しないことを特徴とする、請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の湿気硬化型組成物。

【請求項 5】

脂肪酸アルキルエステルを可塑剤として含有することを特徴とする、請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の湿気硬化型組成物。

【請求項 6】

湿潤剤及び / 又は分散剤を更に含有することを特徴とする、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の湿気硬化型組成物。

【請求項 7】

硬化後の密度が  $1.75 \text{ kg/l}$  以上であることを特徴とする、請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載の湿気硬化型組成物。

【請求項 8】

最大  $15\%$  (w/w) のシラン官能性ポリマー P、

フィラーとして  $70\%$  (w/w) ～  $80\%$  (w/w) の炭酸カルシウム、

$5\%$  (w/w) ～  $20\%$  (w/w) の少なくとも 1 つの可塑剤及び

前記シラン官能性ポリマーを架橋する少なくとも 1 つの触媒

を含み、完全に硬化した状態で DIN 53505 に準拠して求められるショア A 硬度が 60 以上であり、硬化前に本明細書に記載の方法によって求められる押出圧力が  $1000 \text{ N}$  以下である、請求項 1 に記載の湿気硬化型組成物。

【請求項 9】

接着剤、シーリング材又はコーティングとしての請求項 1 ～ 8 のいずれか一項に記載の湿気硬化型組成物の使用。

【請求項 10】

パーケット接着剤としての、請求項 9 に記載の使用。

【請求項 11】

請求項 1 ～ 8 のいずれか一項に記載の組成物の水による硬化後に得ることができる硬化組成物。

【請求項 12】

DIN 53505 に準拠して求められるショア A 硬度が 60 以上であることを特徴とする、請求項 1 1 に記載の硬化組成物。

## 【請求項 13】

D I N 53479 に準拠して測定される密度が  $1.75 \text{ kg/l}$  以上であることを特徴とする、請求項 1 1 又は 1 2 に記載の硬化組成物。

## 【請求項 14】

前記シラン官能性ポリマー P が、シラン官能性ポリウレタンポリマー P 1 である、請求項 8 に記載の湿気硬化型組成物。

## 【請求項 15】

前記可塑剤の少なくとも一種が、脂肪酸アルキルエステルである、請求項 8 又は 14 に記載の湿気硬化型組成物。